

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 10-105600

(43)Date of publication of application : 24.04.1998

(51)Int.Cl.

G06F 17/60

(21)Application number : 08-261599

(71)Applicant : HITACHI LTD

(22)Date of filing : 02.10.1996

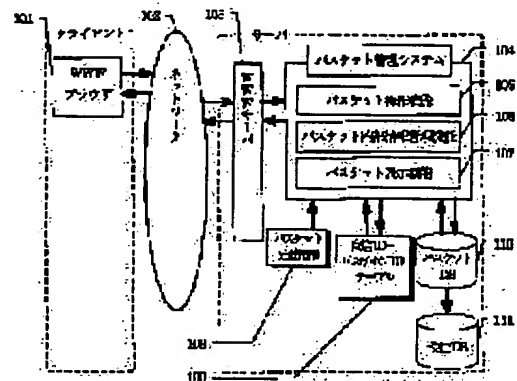
(72)Inventor : TAGUCHI NAOFUMI
MATOIKE AKIRA

(54) BASKET SYSTEM FOR ELECTRONIC SHOPPING

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a basket system with which plural baskets can be handled and plural baskets for managing the information of various attributes provided for merchandise in an electronic shopping system can be defined and handled, concerning the electronic shopping system.

SOLUTION: A basket operating function 105 and a basket display function 107 called from a WWW server 103 perform data updating such as the addition/deletion/number change/reference of merchandise while specifying any basket out of plural baskets through a basket inside information managing function 106 by using a basket identifier generated based on a shop ID uniquely applied at each shop in the electronic shopping system and a session ID uniquely applied each time a user enters the electronic shopping system for purchase.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

17.05.2000

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-105600

(43) 公開日 平成10年(1998) 4月24日

(51) Int.Cl.⁶

G 0 6 F 17/60

識別記号

F I

G 0 6 F 15/21

3 3 0

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平8-261599

(22) 出願日 平成8年(1996)10月2日

(71) 出願人 000005108

株式会社日立製作所

東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地

(72) 発明者 田口 直文

神奈川県横浜市戸塚区戸塚町5030番地 株

式会社日立製作所ソフトウェア開発本部内

(72) 発明者 的池 陽

神奈川県横浜市戸塚区戸塚町5030番地 株

式会社日立製作所ソフトウェア開発本部内

(74) 代理人 弁理士 小川 勝男

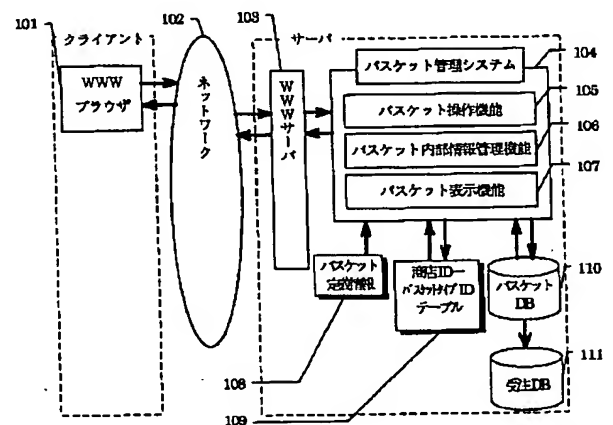
(54) 【発明の名称】 電子ショッピングにおけるバスケットシステム

(57) 【要約】

【課題】本発明は電子ショッピングシステムにおいて、複数のバスケットを扱うことを可能にするバスケットシステムを実現することを目的とし、電子ショッピングシステム内の商品が持つ多様な属性の情報を管理できる複数のバスケットを定義し、扱うことができるバスケットシステムを実現するものである。

【解決手段】WWWサーバ103から呼ばれたバスケット操作機能105、バスケット表示機能107は、電子ショッピングシステム内の各商店で一意に付与される商店ID、利用者が購入のために電子ショッピングシステム内に入った一回一回に対して一意に付与されるセッションIDを基に生成されるバスケット識別子を用いてバスケット内部情報管理機能106により、複数のバスケットの中からバスケットを特定し、商品の追加/削除/個数変更/参照などのデータ更新を行う。

図1



□

【特許請求の範囲】

【請求項1】ネットワーク上での商品購入を目的とする電子ショッピングシステムにおいて、利用者の購入が完了するまでの間、利用者と利用者の購入情報を結び付けて管理するために、バスケットというオブジェクトを用い、このバスケットを任意のまとまりに対して提供できるようにすることにより、同一電子ショッピングシステム内で複数のバスケットの提供及び、使用ができることを特徴とするバスケットシステム。

【請求項2】請求項1で述べたバスケットは、バスケットの形状を一定規則を持った定義記述文で定義することができ、このバスケットの形状とバスケットを提供するまとまりを結び付けることにより、バスケットが管理する情報を表現するためのバスケットの形状、及びバスケットが管理する情報を操作するためのアクションを、バスケットを提供する各まとまりの属性に応じて変更することができることを特徴とするバスケットシステム。

【請求項3】電子ショッピングシステム中に提供される複数のバスケット各々に対して識別子を付与し、この識別子と利用者を識別するための識別子を用いることにより、利用者が複数のバスケットの中からどのバスケットにアクセスしているかを特定し、バスケットが管理する情報の参照及び更新を可能とするバスケットシステム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明はネットワーク上の仮想的な商店街である電子ショッピングシステムにおける購入商品の管理方法に係り、特に種々の属性を持つ購入商品の管理および表示に好適なバスケットシステムに関する。

【0002】

【従来の技術】電子ショッピングでは、利用者が購入した物件の情報を受注処理が終了するまでの間保持しておくためにバスケットというオブジェクトを利用する。バスケットは利用者が購入した商品の識別子や商品名、個数、単価などの情報を保持し、利用者に対して持っている情報を表現し、情報を操作するアクションを提供する。

【0003】従来の方式では、電子ショッピングシステム内の商店やさらにそれらの商店が取り扱う商品は電子ショッピングシステム内に複数存在するのに対し、バスケットは電子ショッピングシステム一つにつき一つであった。したがって利用者は電子ショッピングシステム内の種々の商店からの種々の購入品を一つのバスケットに保持していた。バスケットが同一であるため、バスケット内に保持する購入商品の情報は同一の項目を持つよう限定されていた。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】上記従来技術では、電子ショッピングシステム一つにつき一つのバスケットで

□

あったため各商店の種々の購入物件に関する情報は全て同一の項目を持つことに限られ、扱う商品毎に異なる項目を持つバスケットを使うことはできなかった。

【0005】本発明の目的は、電子ショッピングシステム一つにつき扱う項目や表示形状などが異なる複数のバスケットを提供可能にすることにある。

【0006】本発明の他の目的は、異なる商店でマルチバスケットの内の同一のバスケットを使用することにより、バスケットが管理する商店のグループ化を可能することにある

【0007】

【課題を解決するための手段】上記の目的は、電子ショッピングシステム内でバスケットIDなる識別子を導入し、この識別子によって複数あるバスケットの中から特定のバスケットを識別し、異なるバスケットの管理情報を扱うことを可能にすることで達成される。

【0008】

【発明の実施の形態】以下、本発明の一実施例を図面を用いて説明する。図1は本発明を適用する電子ショッピングシステムの基本となるシステム構成図である。WWWブラウザ101は商品の購入者によって起動され、ネットワーク102を通じてWWWサーバ103と通信を行う。WWWサーバ103はWWWブラウザ103の要求によりバスケット管理システム104にたいして商品追加/削除/個数変更/参照などの処理を依頼、あるいは現在の状態の問い合わせをし、結果としてブラウザ表示用のページを受取、WWWブラウザに送信する。

【0009】バスケット管理システム104はバスケット操作機能105、バスケット内部情報管理機能106、バスケット表示機能107に分かれ、バスケット定義情報108、商店ID-バスケットタイプIDテーブル、バスケットDBなどを利用する。商店IDとは電子ショッピングシステム内の各商店に一意につけられる識別子であり、バスケットタイプIDとは、種々のバスケット定義に対して一意につけられる識別子である。バスケットDBはバスケットの状態を保持しておくためのデータベースであり、バスケット定義情報108はバスケットの表示形状、バスケットに対する操作の定義を記述するものである。商店ID-バスケットタイプIDテーブル109は各商店での購入商品をどのバスケットに入れるかの対応を定義するものである。バスケット操作機能105はWWWサーバから要求を受け、バスケットDBに対して種々の操作を行う機能である。バスケット内部情報管理機能106とはバスケットDBからバスケットに対するレコードを特定し、またバスケットを管理するために必要な内部の情報、たとえば作成日時などの情報を管理する機能である。バスケット表示機能107はバスケットDBやバスケット定義情報からWWWブラウザ101で表示する画面を生成する機能である。

【0010】WWWサーバ103からバスケット管理システム104に商品追加/削除/個数変更/参照の要求があると、バ

スケット操作機能105はWWWクライアントから送られた情報を基にバスケット内部情報管理機能106に問い合わせバスケットを特定する。ここで新規のバスケットであれば、バスケット内部情報管理機能106は新たなバスケットを作成し、作成日時などのバスケット管理情報を保存する。バスケットの特定に成功するとバスケット操作機能105はWWWクライアント101から商品追加/削除/個数変更/参照などの命令に基づくWWWサーバからの商品追加/削除/個数変更/参照の命令を受けて、バスケットDB109の更新、参照を行う。更新、参照の後、バスケット操作機能104、あるいはWWWサーバ103の命令によりバスケット表示機能107は、バスケット定義情報108、バスケットDB110のデータを参照し、クライアントのWWWブラウザ101に表示するページを生成する。生成されたページはWWWサーバに送られ、ネットワーク102を通じてWWWクライアント101に送られ、表示される。

【0011】第2図は商店ID-バスケットタイプIDテーブルの一例である。バスケットの形状は扱う商品の種類に応じて複数存在し、それぞれIDによって区別する。各商店はどのようなタイプのバスケットを使用するかという情報を商店ID-バスケットタイプIDテーブルに登録する。このように、使用するバスケットのタイプを登録するテーブルを持つことで、各商店は商店独自のバスケットを用いることができ、また違う商店で同じバスケット定義を共用することも可能となる。

【0012】第3図はバスケットの情報を保持するためのバスケットDBの一例である。バスケットDBは基本領域401および拡張領域402に分かれる。基本領域401は電子ショッピングシステム内の全ての商品が共通して持つ項目を格納し、また拡張領域402の該当するレコードにアクセスするための指標を格納する。拡張領域は各々の商品に固有な性質、たとえば色やサイズを選べるものは購入した色やサイズを格納する。バスケット内のデータを参照するには、まず該当する商品IDより基本領域のデータを取得する。次にこの中にある拡張領域の指標をもとに、拡張領域内の該当する商品のデータを取得する。このようにして選られたデータを1つのデータとしてまとめ、バスケットDBの検索結果とする。このように拡張領域をもつことで、各々の商品で必要となる項目を柔軟に設定できることになり、柔軟なバスケット定義が可能になる。

【0013】第4図はバスケットに対する商品の追加/削除/個数変更/参照の処理の中で、特にバスケットに商品を追加する処理の流れを示したものである。バスケットに商品を追加する際は、WWWクライアント101より商店ID、セッションIDが送られる。セッションIDとは、買い物をするために購入者が電子ショッピングシステムに入った一回一回に対して一意につけられる識別子である。

【0014】以下に実際の流れについて述べる。バスケットへの商品追加を行うには、まず送られてきた商店IDを基にその商店が使用しているバスケットのタイプを特定する(402)。次にこのバスケットタイプIDとセッションIDを基に、利用者が持つ複数のバスケットから特定のバスケットを識別できるバスケットIDを生成する(403)。つづいて、バスケットIDを基にバスケットDBを検索し、もしそのバスケットがなかったら新規のバスケットとしてバスケットを生成する(404)。目的のバスケットを特定した後、バスケットDB中のバスケットIDに対応するレコードの更新を行う(405)。

【0015】尚、商品の削除/個数変更/参照もほぼ同様の処理となる。すなわち、401と同様に商店IDからバスケット種類IDを取得し、402と同様にセッションIDとバスケット種類IDからバスケットIDを取得した後、406に相当する処理として該当する項目の削除または個数フィールドの変更を行う。商品の削除/個数変更/参照の処理の際には、必ずバスケットは存在するため新たなバスケットの作成は不要であり、405に相当する処理はない。406で商品情報の削除/更新/参照を行うことになる。

【0016】第5図はバスケット表示の画面構成の一例であり、WWWブラウザ上で表示する画面の例である。バスケット502はバスケット501に対してサイズ、色の項目が追加されている。たとえばサイズ、色が必要な商品を扱う商店はこのように独自に定義したバスケットを使用することで、購入商品をよりわかりやすく購入者に提示することができる。また、第3図では違う商店で同一のバスケットを共用しており、商店のグループ化も可能となる。

【0017】上記のように本発明では、バスケットIDなるものを導入してバスケットを識別し、またバスケットの種類と商店を結び付けるテーブルを使用することで、商店独自のバスケットを定義できる。また、複数の商店で同一のバスケットを使用することで商店のグループ化を図ることができる。

【0018】尚、本発明は上述の実施例に限るものではない。バスケットDBの構造やバスケット画面構成などは本実施例に限るものではなく種々変化して実施することが可能である。本発明はその要旨を逸脱しない範囲で様々な方法で実施できるものである。

【0019】

【発明の効果】本発明によれば、電子ショッピングシステムにおいて、一つのシステムに複数のバスケットを扱うことが可能となり、種々の属性を持つ商品に対して異なるバスケットを定義することが可能となる効果がある。

【0020】また、異なる商店で同一のバスケットを共有することも可能であり、商店のグループ化が可能になる効果もある。

【図面の簡単な説明】

【図1】 システムの概略を示す構成図である。

【図2】 商品ID-バスケットタイプIDテーブルの例を説明する図である。

【図3】 バスケットDBの例を説明する図である。

【図4】 商品追加処理の流れを説明するフロー図である。

【図5】 画面構成の一例を示す図である。

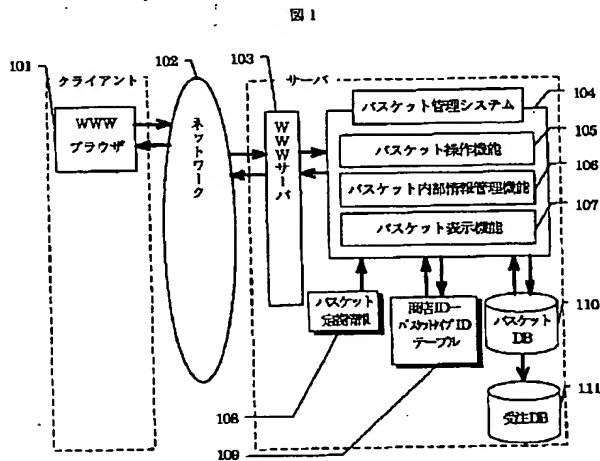
【符号の説明】

105：バスケット操作機能

106：バスケット内部情報管理機能

109：商店ID-バスケットタイプIDテーブル

【図1】

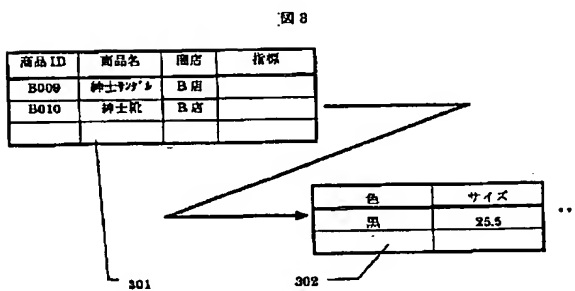


【図2】

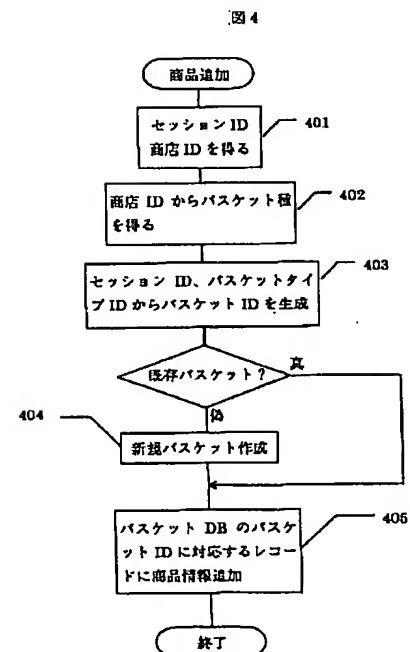
図2

商店ID	バスケットタイプID
0005	0001
0008	0004
0010	0003
0016	0004

【図3】



【図4】



(5)

特開平10-105600

【図5】

図5

501

商品名	商品番号	商店	単価	数量	合計
デジタルカメラ	C024	A店	41800	1	41800
VHSビデオテープ	S301	C店	500	5	2500
				消費税	0
				送料	1000
				合計	45300

502

商品名	色	サイズ	商品番号	商店	単価	数量	合計
紳士靴	茶	25.5	B010	B店	12800	1	12800
Yシャツ	白	38-78	N003	D店	4900	1	4900
						消費税	531
						送料	1000
						合計	19231